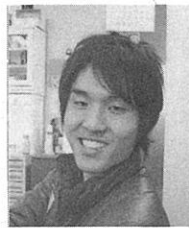


茶流

K04098 藤巻遼平



I. テーマ

今回着目したのは、交通機関の中心であり、毎日人がめまぐるしく動く、都心の「駅」である。駅は、性別・人種・年齢に関わらず利用され、これから主要交通機関として我々の生活を担っていくはずである。

—駅とはまちの玄関だ。—

今、駅ナカとして商業施設を入れている駅も多く見られるが、これにはそのまちに出ることなく駅を離れてしまう可能性がある。本当にそれが駅の機能として求められているものなのだろうか。駅とまちをもっと密接に結びつけていく必要があるのではないか。初めてそのまちを訪れた人が興味を持って駅からまちへと出て行く、まちの特色を活かした駅に。

new marunouchi line access

new ochanomizu station

III. 敷地調査

i) 御茶ノ水駅沿線上のバリアフリー動線の確認

中央線、丸の内線、千代田線における駅（東京都）の全 56 駅に関し、バリアフリー動線のチェックを行った。

調査結果：①動線上にエレベーターのある駅は利用しやすい

②地下鉄はホームと改札が同じレベルにある事が多い

③中央線沿線上の駅でエスカレーター・エレベーターどちらも不設置の駅は御茶ノ水駅だけである

ii) 御茶ノ水駅からの人の流れ

御茶ノ水駅に接する道路は大きく分けて 8 本ある。そこで、平日の朝・昼・夕方に 5 分おきに駅から各道路への人の流れを調査した。

調査結果：①人の流れは、御茶ノ水橋方面に集まる

②高齢者は、主に朝・昼の時間に利用する

③朝・昼は通院のため、車椅子利用者も多い

II. 御茶ノ水駅の抱える問題

御茶ノ水駅のホームは、神田川の流れに沿った谷間にある。そして、駅舎は御茶ノ水橋・聖橋に挟まれており、その立地条件ゆえ二面あるホームの幅員は確保できず、朝・夕方のラッシュ時には電車を待つ人、降りる人の流れでホームから溢れてもおかしくない現状が続いている。また、ホームから改札まではエレベーター・エスカレーターの設置がなく、昼間には通院のため御茶ノ水駅を利用する車椅子利用者も多く見られ、階段昇降機を利用する光景を見るのも珍しくない。また、駅前広場も一つの問題で、安らげる空間もなく、バス乗り場・タクシープールも隣接する橋にまで広がっているなど、満足に利用できる環境であるとはいえない。

ochanomizu station

IV. コンセプト“茶流”

御茶ノ水には様々な流れが存在する。

大学生の流れ、病院を利用する高齢者の流れ、神田川の流れ...

しかし今、その流れはスムーズに流れていない。

そう。今の御茶ノ水駅はこの流れをせき止めているのだ。

ならば、ここに新しい御茶ノ水駅を提案しよう。

”茶流”

御茶ノ水に再び流れを。

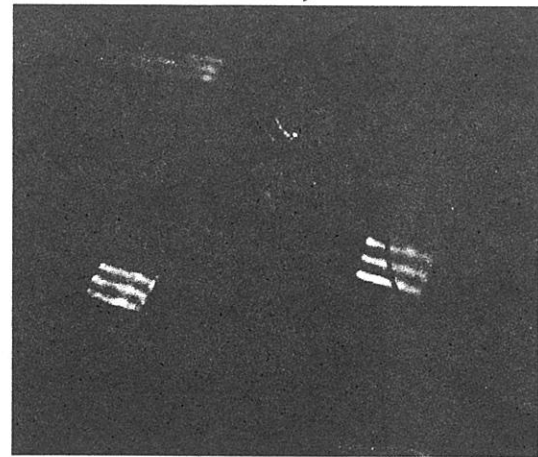
駅からまちへ、まちから駅へ。

人々は“茶流”に乗って流れ出す。

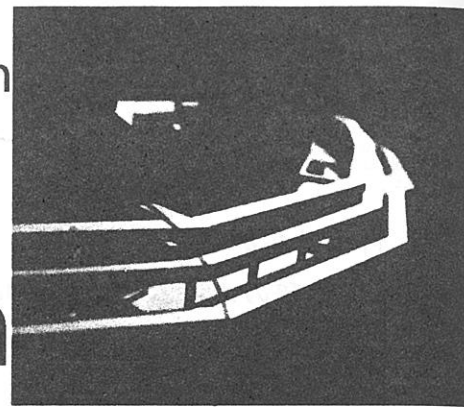
program

otyanomizu histrical musium

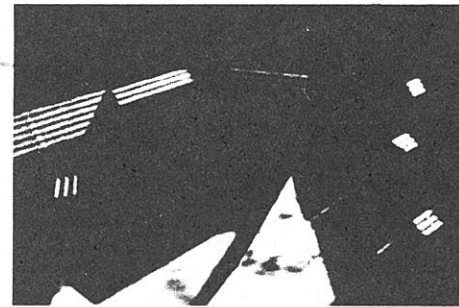
station



reading space

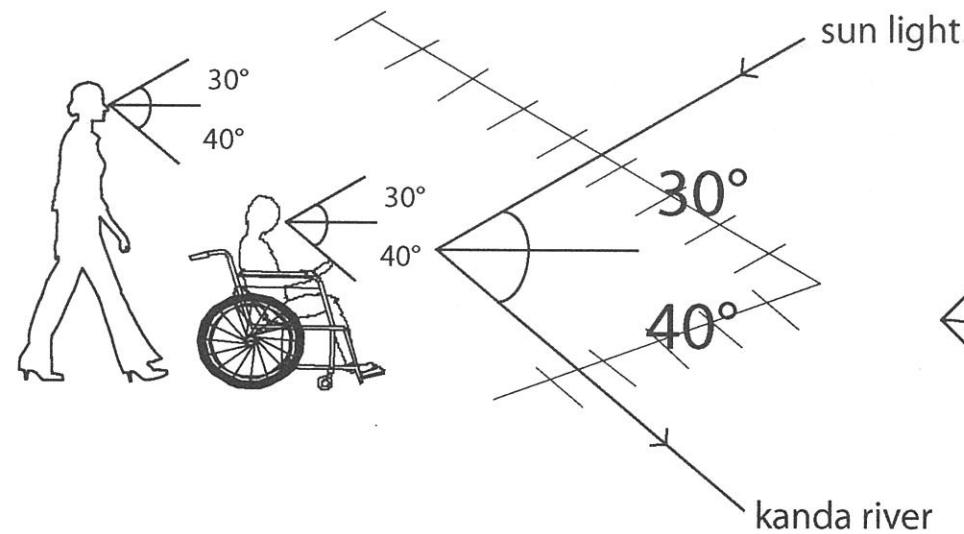


walking load

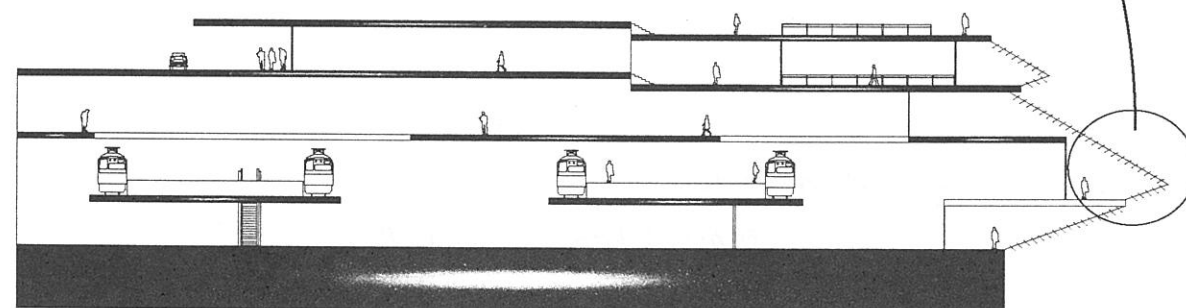


street musician space

for example: human' s visual field



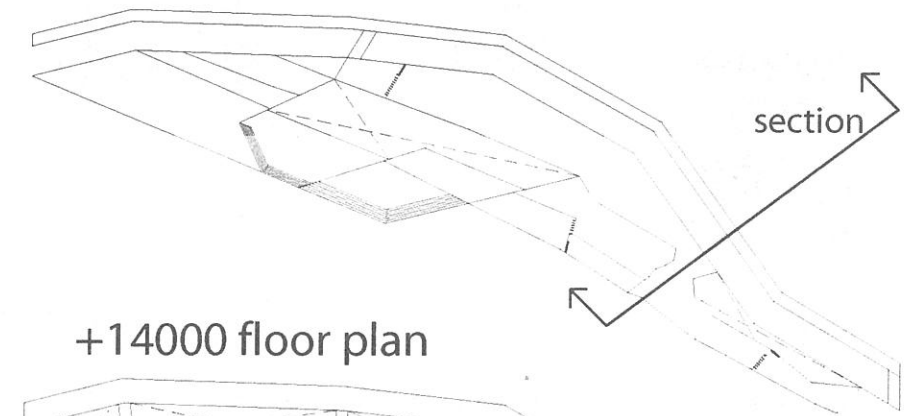
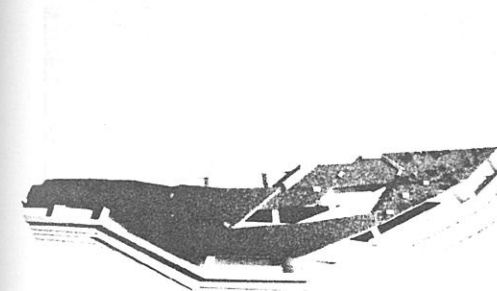
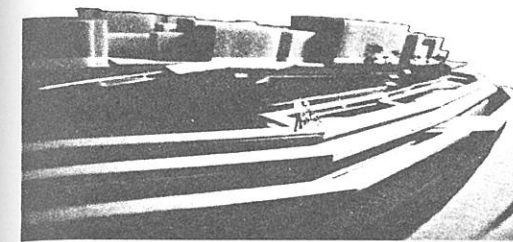
敷地調査・新バリアフリー法・人間単位モジュールから '茶流' に適するモジュールを作成し、計画する。



section S=1:500

floor plan s=1:3000

+22000~+18000 floor plan



+14000 floor plan

+9000 floor plan

+5000 floor plan

diagram



diagram : 1

敷地周辺の千代田区の主要道路を trace する



diagram : 2

回転・縮小により設計敷地に当てはめる



diagram : 3

川・土地の地形を意識付け、形を決定させる